

富山県における障害児の歯科医療に関する実態調査

山田 教子*・武藏 博文

(2004年 8月 31日受理)

Investigation on the Actual Conditions Concerning the Dentistry for Handicapped Children in Toyama

Noriko YAMADA and Hirofumi MUSASHI

キーワード：障害児，歯科受診，歯科治療，口腔衛生

Key words : handicapped children, dental consultations, dental procedures, oral hygiene

1. はじめに

障害児の歯科疾患のほとんどは、健常児と同じ様に家庭や学校の歯科健診等において発見されている。しかし、歯科疾患が発見され保護者が治療を受けたくても、障害児は健常児に比べて治療が困難なことが多いため、一般の歯科診療所では十分な治療を受けられていない(武田, 竹辺, 1996)。そのような事例は宮城県(猪狩, 斉藤徹, 斉藤峻, 神山, 1994), 岐阜県(玄, 安田, 岩田, 大山, 田邊, 中嶋, 平田, 辻, 岩山, 石黒, 土田, 水野, 2000), 北海道(弘中, 木下, 白川, 及川, 小口, 1998)などの調査で報告されている。

富山県内では、障害者歯科医療機関として、唯一、富山県歯科保健医療総合センターがある。常時、障害者歯科専門医のいる医療機関が他にはないため、患者数は年々増加している。そのため、すぐに治療を受けたくても予約待ちの状態が続いていたり、この施設から遠方のため、通院が困難な患者がいたりしていることが予想される。

障害児が治療に困難を伴うことの理由は、障害の種類や程度によるが、歯科医師や歯科衛生士と会話でのやりとりが難しいこと、本人が治療の意味がわからず見通しがもてないこと、車いす対応になっていないなどの施設面のことがあげられる(竹内, 重田, 日詰, 飯田, 木村, 2002; 玄ら, 2000)。中でも自閉症児は、診察時の医師や衛生士との意思疎通でつまづきが予想されるため、治療が難しいのではないかと考えられる。

本研究は、富山県内の障害児における歯科に関する実態を把握することを目的とし、県内の特殊教育諸学校に在籍する児童生徒をもつ保護者を対象に「歯科医療に関する調査」を実施した。歯科受診状況、歯の健康状態、口腔衛生管理、保護者の意識、受診経験や要望などを調査し、結果を基に、障害児の歯科受診や治療に関する課題を明確にする。そして、今後の歯科医療や、虫歯予

防教育を進めていく上での適切な支援方法を検討したいと考える。

2. 研究方法

(1) 対象者

富山県内の盲・ろう・養護学校12校に在籍している小学部1年生から高等部3年生(盲・ろう・知的障害・肢体不自由等)の障害児の保護者917名である。詳細を表1に示す。

表1 対象者について

学校名	人数
富山県立盲学校	11名
富山県立富山ろう学校	30名
富山県立高岡ろう学校	24名
富山大学教育学部附属養護学校	57名
富山県立高岡養護学校	173名
富山県立しらとり養護学校	194名
富山県立となみ養護学校	89名
富山県立となみ養護学校砺波学園分校	29名
富山県立にかわ養護学校	86名
富山県立富山養護学校	95名
高岡市立こまどり養護学校	25名
富山県立高志養護学校	104名
計12校	計917名

(2) 調査内容

「歯科医療に関する調査」の内容は、障害児の歯科受診の状況、歯の健康状態や口腔衛生管理からなる(資料1, 2参照)。

歯科受診状況の調査項目については、「宮城県における障害者歯科医療の実態」(猪狩ら, 1994), 「発達障害児の歯科治療に関するアンケート調査」(竹内ら, 2002), 「岐阜県における障害者歯科医療の問題点—障害者への

* 富山大学大学院教育学研究科(富山県立となみ養護学校砺波学園分校教諭)

アンケートと要望分析」(玄ら, 2000), 「北海道における心身障害児の歯科医療に関する実態調査－養護学校児童を対象としたアンケート調査」(弘中ら, 1998)を基に作成した。

歯の健康状態や口腔衛生管理の調査項目については, 「自閉症児(者)の口腔保健管理に関する調査－歯科診察表と歯磨きの実態より」(原田, 西野, 2002), 「障害児の歯科保健行動と歯肉健康度について」(海老名, 鈴木, 嶋, 1999), 「発達障害児の歯科治療に関するアンケート調査」(竹内ら, 2002), 「知的障害児の保護者と健常児の保護者との歯科保健に関する意識の違いについて」(海老名, 2002), 「平成11年歯科疾患実態調査報告－厚生省健康政策局調査」(厚生省, 1999), 「歯磨き指導診査用紙」「予診録」(富山県歯科保健医療総合センター)を基に作成した。

調査アンケートは全41項目である。そのうち, 33項目では選択による回答, 8項目では自由記述による回答を求めた。

「設問1 お子様について」の5項目では, 対象児本人の性別や年齢, 居住地, 障害名, 自閉症の診断の有無についての実態把握を目的とした。

「設問2 歯科受診について」の10項目では, 歯科受診経験の有無や受診動機, 通院時の様子, 待合室の様子, 診察時の様子, 治療困難の理由, 歯科医院での対応, 歯科医院への要望などについての実態把握を目的とした。

「設問3 口腔衛生について」の16項目では, 歯磨きの時間帯と回数, 援助者, 歯磨き剤の使用, 歯肉口臭の状態, 定期検診の受診経験の有無, 歯磨き指導の経験の有無や希望, おやつ時間帯と回数, 内容, 虫歯の有無, 虫歯予防などについての実態把握を目的とした。

「設問4 歯科情報について」の3項目では, 歯科に関する情報の入手方法, 今まで受けた歯科指導の内容, 今後希望する歯科情報の内容などについての実態把握を目的とした。

「設問5 その他について」の2項目では, 学校やアンケート全般についての意見の把握を目的とした。

(3) 調査方法

富山県歯科医師会, 富山県特殊教育諸学校校長会, 富山県特殊教育諸学校養護教育部会の賛同, 協力を得ることができた。富山県内の盲・ろう・養護学校12校それぞれの学校の養護教諭を通じて, 各担任から全保護者に調査用紙を配布し, 回収を行った。

(4) 調査期間

平成15年10月中旬から11月までの約3週間である。

(5) 結果の処理

集計の仕方は, 選択による回答の単純集計を行った。年齢や障害の種類の違い, 特に自閉的傾向の有無が及ぼ

している影響を検討するため, クロス集計を行ったが, 今回は, 全調査項目についての単純集計のみを報告する。

3. 調査の結果及び考察

調査用紙の配布数は917名, 回収数は755名であり, 回収率82.3%であった。なお, 項目それぞれについて有効回答数を求めた。詳細を表2に示す。

表2 有効回答数および回収率

学校名	配布数	回答	回収率
富山県立盲学校	11	9	81.8
富山県立富山ろう学校	30	28	93.3
富山県立高岡ろう学校	24	24	100
富山大学教育学部附属養護学校	57	51	89.5
富山県立高岡養護学校	173	143	82.7
富山県立しらとり養護学校	194	158	81.4
富山県立となみ養護学校	89	76	85.4
富山県立となみ養護学校砺波学園分校	29	28	96.6
富山県立にかわ養護学校	86	63	73.3
富山県立富山養護学校	95	67	70.5
高岡市立こまどり養護学校	25	20	80.0
富山県立高志養護学校	104	88	84.6
計	917	755	82.3

<設問1> お子様について

ここでの5項目では, 対象児本人の性別や年齢, 居住地, 障害名, 自閉症の診断の有無について質問した。

(問1) 性別について

有効回答は753名であった。結果は, 「男」が65%(492名), 「女」が35%(261名)であった。

(問2) 学部について

有効回答は755名であった。結果は, 「小学部」が39%(295名), 「中学部」が26%(193名), 「高等部・専攻科」が35%(264名)であった。

この2つの結果を図1に示す。

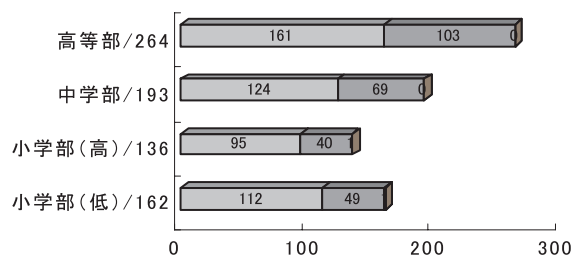


図1 対象児の性別および学部

(問3) 現在, 住んでいる場所について

有効回答は750名であった。結果は, 「自宅」が80%

障害児歯科医療の実態調査

(604名)で最も多かった。「施設に入所」が11%(81名),「学校の寄宿舎」が8%(63名)であった。その他の場所として、「病院に入院中」(2名)の回答があげられていた。

(問4) 障害名について

有効回答は738名であった。結果は、「知的障害」が73%(536名)で最も多かった。「肢体不自由」が23%(171名),「自閉症・広汎性発達障害」が15%(112名),「聴覚障害」が9%(64名),「視覚障害」が4%(26名),「病弱・虚弱」が1%(8名),「LD」が1%(6名),「情緒・心因性の問題(不登校など)」が1%(5名),「ADHD」が1名であった。

(問5) 自閉症と診断されたことがあるか

有効回答は637名であった。結果は、「診断されたことも、言われたこともない」が53%(398名)で最も多かった。「自閉症(広汎性発達障害)と診断されたことがある」が10%(78名),「自閉的傾向があるのではないかと言われたことがある」が18%(138名),「診断されたり,言われたりこともないが,自閉症ではないかと気になっている」が3%(23名)であった。

この結果を図2に示す。

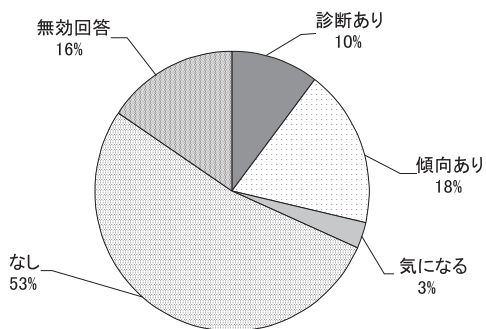


図2 自閉症と診断されたことがあるか

<設問2> 歯科受診について

ここでの10項目では, 歯科受診経験の有無や受診動機, 通院時の様子, 待合室の様子, 診察時の様子, 治療困難の理由, 歯科医院での対応, 歯科医院への要望などについて質問した。

<2-1> 歯科受診経験について

(問1-1) 歯科受診の経験があるか

有効回答は754名であった。結果は,「受診経験がある」が93%(698名),「受診経験がない」が7%(56名)であった。

この結果を図3に示す。

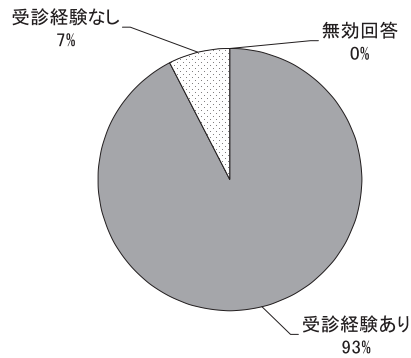


図3 歯科受診の経験があるか

(問1-2) どんな理由で歯科医院を選んでいるか

有効回答は656名であった。結果は,「障害児に専門的に対応してくれる態勢があるので」が38%(267名)で最も多かった。「たまたま近所で通院に便利なので」が26%(184名),「医師や歯科衛生士の対応が優しいので」が19%(133名)だった。「治療技術がよいので」が4%(25名)で最も少なかった。その他の理由として,「学校医だから」「小児歯科だから」などの回答があげられていた。

治療技術よりも, 障害に応じた治療や対応の仕方, 歯科を選択している保護者が多いことが伺える。そのうちの約6割が知的障害や自閉症の子どもを持つ保護者である。特に小学部の低学年(1, 2, 3年生)に多く見られた。

通院の距離や便利さで歯科を選択した約半数は, 聴覚障害, 視覚障害, 肢体不自由の子どもを持つ保護者であることがわかった。

この結果を図4に示す。

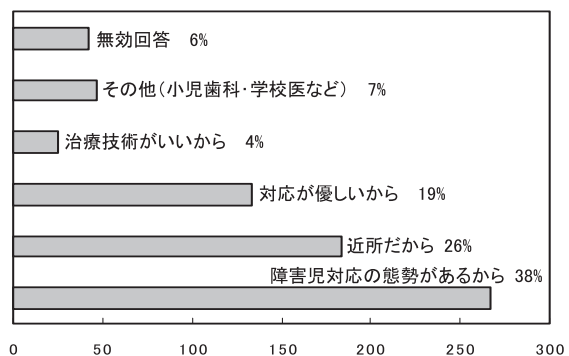


図4 どんな理由で歯科を選んでいるか

(問1-3) どの歯科を受診したのか

有効回答は657名であった。結果は,「個人歯科医院・総合病院など」が68%(473名)で最も多かった。「富山県歯科保健医療総合センター」が25%(175名),「どちらも」が1%(9名)であった。

問1-2で「障害児に専門的に対応してくれる態勢があるので」と回答した約6割は, 富山県歯科保健医療総合センターに通院していた。その中には, 通院に往復3時間をかけているという保護者の記述回答も見られた。

また、「障害児に専門的に対応してくれる態勢があるので」と回答し、個人歯科医院に通院している保護者が約4割見られた。障害に応じた治療というよりも、医師や歯科衛生士の対応の仕方が障害に応じているかどうかを、歯科を選択する場合に重視していることが考えられる。この結果を図5に示す。

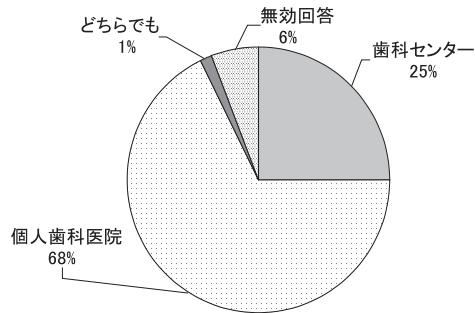


図5 どの歯科を受診したのか

(問1-4) どのくらい歯科医院を利用したことがあるか
有効回答は529名であった。結果は、「1年に約2, 3回利用している」が37%(255名)で最も多かった。「半年に約2, 3回利用している」が18%(123名)だった。「毎月約1回以上利用している」が7%(48人)で最も少なかった。その他の回数として、「むし歯のあったときだけで最近利用していない」「乳歯の抜歯で1回行っただけ」などの回答があげられていた。

「毎月約1回以上利用している」が小学部の低学年に多いが、乳歯から永久歯への生え替わり時で、乳歯の抜歯のために受診したことが考えられる。また、知的障害や自閉症の子どもたちの場合、治療が目的で通院したのではなく、フッ素塗布やブラッシング指導を定期的に行うことで、歯科医院に慣れることが目的で通院したのではないかと考えられる。

この結果を図6に示す。

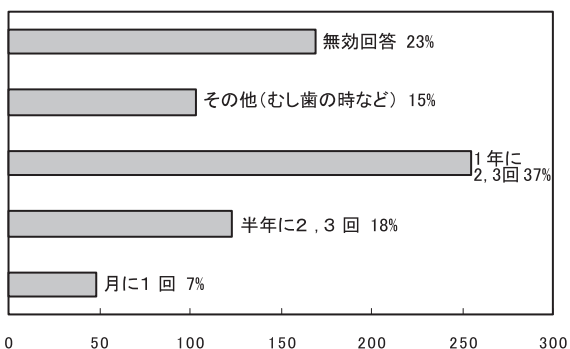


図6 どのくらい歯科を利用したことがあるのか

(問1-5) 受診経験がない場合の理由は何か

有効回答は56名であった。結果は、「むし歯がなく、行く必要がないので」が60%(34名)で最も多かった。「歯科に受診態勢が整っていないから」が7%(4名)、

「連れて行きたいが、本人が拒否しているから」が5%(3名)、「近くに歯科がないから」が4%(2名)であった。「障害児専門歯科がわからないので」と「時間がないから」が2%(1名)で最も少なかった。

受診経験がない理由として、「歯科に受診態勢が整っていないから」「連れて行きたいが、本人が拒否しているから」「近くに歯科がないから」と回答した11名の保護者は、「むし歯があるかどうか」の設問において、「むし歯がある」と回答している。そのうちの半数は高等部であり、むし歯の進行がたいへん心配される。

通院時に抵抗や拒否を示しても受診するかどうかは、保護者の歯科に関する関心の高さと関係があるのではないかと考えられる。しかし、「近くに歯科がないから」を選択した保護者には、車の免許がなかったり、祖父母が全ての養育を任されていたりなどの理由があり、少数の回答ではあるが行政のサポートが強く望まれる点の一つである。

この結果を図7に示す。

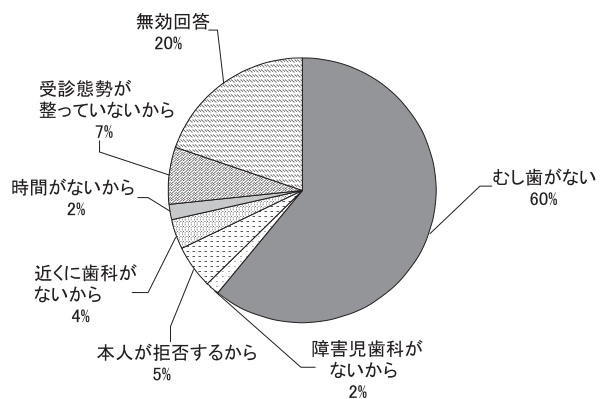


図7 受診経験がない理由は何か

(問2) 受診のきっかけとなった動機は何か

有効回答は669名であった。結果は、「学校から治療カードをもらったので」が59%(414名)で最も多かった。「自宅でむし歯が見つかったため」が14%(98名)、「検診を受けるため」が10%(69名)、「むし歯予防のため(フッ素塗布など)」が5%(36名)であった。「自宅で、歯ぐきから出血があるなど、歯肉に問題があったため」が1%(6名)で最も少なかった。その他の理由として、「自傷行為で歯を折ってしまったため」「乳歯の抜歯のため」などの回答があげられていた。

この設問からは、学校の歯科健診がいかに歯科受診の大きなきっかけになっているかということが伺える。「むし歯があるかどうか」の設問において、「むし歯があるかどうかわからない」と回答した大半は、学校で歯科健診を受けることができなかった子どもたちであった。

「むし歯予防のため(フッ素塗布など)」と回答した約7割は問1-4において「毎月約1回以上利用している」と回答している。知的障害や自閉症の子どもたち、小学

障害児歯科医療の実態調査

部高学年（4，5，6年生）に多く見られた。小学部低学年でむし歯になり歯科受診を経験し，その後再びむし歯にならないように，フッ素塗布をしていることが考えられる。

この結果を図8に示す。

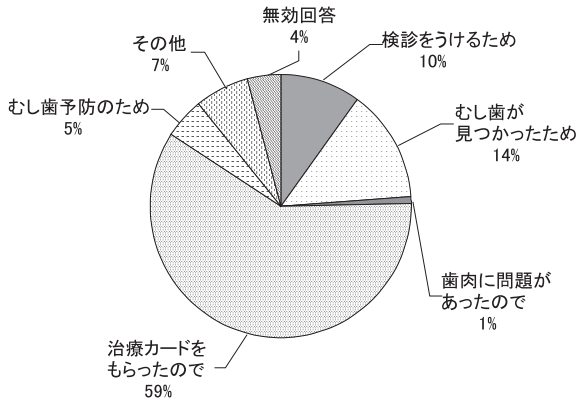


図8 受診の動機は何か

< 2 - 2 > 歯科受診時の様子について

(問3) 通院時はどんな様子だったか

有効回答は672名であった。結果は，「すんなり通院できた」が70% (487名)で最も多かった。「歯医者の前で抵抗，拒否した」が17% (120名)，「歯医者に行くと言っただけで抵抗，拒否された」7% (49名)であった。

通院時に24% (169名)が拒否を示していることがわかった。特に自閉症の子どもたちの半数，知的障害の子どもたちの約3割が何らかの抵抗や拒否を示している。

小学部高学年に「歯医者に行くと言っただけで抵抗，拒否された」の回答が多い。小学校低学年で初めて受診や治療を行い，痛かったり嫌だったりした経験があり，歯科に関してマイナスのイメージを持ってしまっているのではないかと考えられる。

高等部の約8割は「すんなり通院できた」と回答していた。低年齢時からの受診経験の積み重ねが大きく影響してことが考えられる。

この結果を図9に示す。

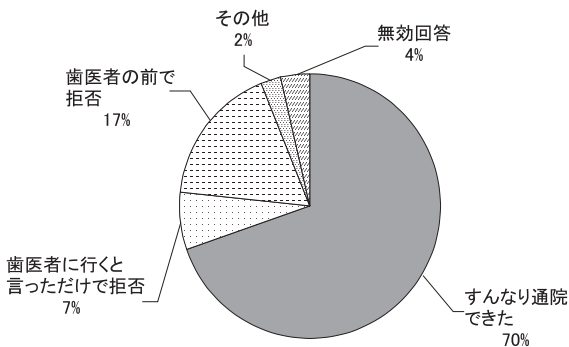


図9 通院時の様子

(問4-1) 待合室ではどんな様子だったか

有効回答は676名であった。結果は，「おとなしく待つことができた」が78% (544名)，「待っていられなかった」が19% (132名)であった。

高等部の約9割，小学部高学年の約6割は「おとなしく待つことができた」と回答していた。

「待っていられなかった」と回答した約7割は，自閉症の子どもたちである。治療時だけでなく，通院時や診察時に至るまでの保護者の大変さが伺える。痛い怖い受診経験をしたことのある子どもたちには，ほんの数分の待ち時間でさえも不安でいっぱいなのであろう。そして，その気持ちを言葉で訴えることができない子どもたちには，やり場のない苦痛な時間であると思われる。

この結果を図10に示す。

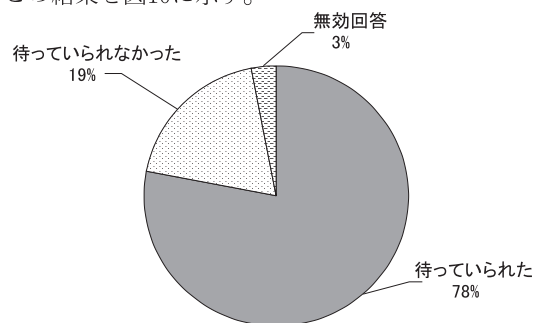


図10 待合室での様子

(問4-2) 待つことができた時は，どんな様子だったか

有効回答は527名であった。結果は，「何もしなくても」が35% (191名)で最も多かった。「本を見ながら」が32% (172名)，「おもちゃ，ゲームで遊びながら」が16% (87名)であった。「テレビやビデオを見ながら」が10% (54名)で最も少なかった。その他の様子として，「診察の順番になるまで車の中で過ごし，待合室で待たなくても済むようにしている」「外で待っている。順番になったら携帯電話に連絡してもらっている。」などの回答があげられていた。

「何もしなくても」と回答した約半数は高等部であった。

「本を見ながら」「おもちゃ，ゲームで遊びながら」と回答した約6割は，知的障害や自閉症の子どもたちだった。家庭から自分のお気に入りのものを持参で行ったケースがあるのではないかとと思われる。

この結果を図11に示す。

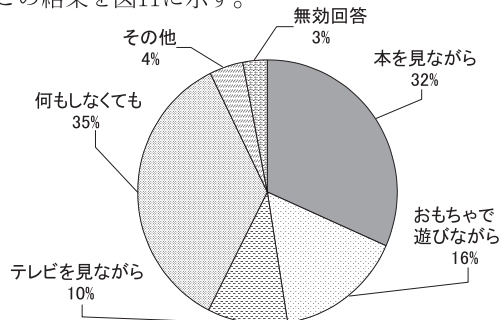


図11 待つことができた時の様子

(問4-3) 待つことができなかった時は、どんな様子だったか

有効回答は118名であった。結果は、「落ち着かず動き回っていた」が36%(48名)で最も多かった。「ただ泣く、パニックなど」が14%(19名)、「診察室や他の部屋に入ろうとした」12%(16名)、「歯科医院から出たがった」が7%(9名)、「テレビや飾り物などをいじって困った」が6%(8名)、「他の患者さんにちょっかいを出した」が2%(2名)であった。「電気のスイッチをいじっていた」が1%(1名)で最も少なかった。

「待ってられなかった」と回答した約7割は、自閉症の子どもたちである。動き回ったり、他の部屋に入ったりするなど、診察前の不安から落ち着いて座ってられない様子が伺える。見通しを持つことが難しいという自閉症の特性が影響している結果であると思われる。

この結果を図12に示す。

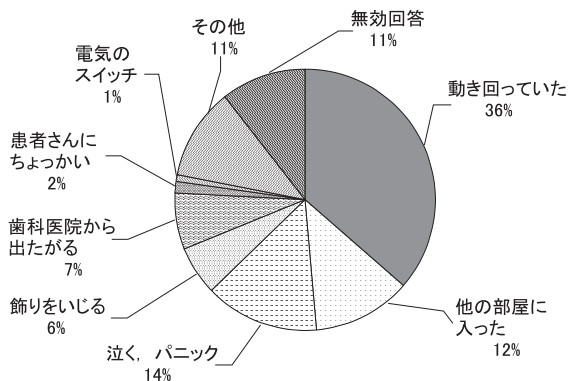


図12 待つことがとができなかった時の様子

(問5) 診察室への移動は、どんな様子だったか

有効回答は682名であった。結果は、「呼ばれてすぐに診察室へ入れた」が85%(589名)で最も多かった。「時間がかかったが診察室へ入れた」が12%(81名)、「入れなかった」3名であった。その他の様子として、「診察室へ入れるようになるまで2、3ヶ月間かかった」などの回答があげられていた。

「時間がかかったが診察室へ入れた」「入れなかった」と回答した大半は、問4-1で「待ってられなかった」の回答者である。待合室で待っていられたかどうか、診察室へスムーズに移動できるかどうかのポイントになっていると思われる。

なお、高等部の約9割は「呼ばれてすぐに診察室へ入れた」と回答している。しかし、「入れなかった」の3名はいずれも高等部の生徒であった。身体が大きく成長しており、保護者が手を握って力づくで連れて行くことができず、あきらめて帰ったことが記述されていた。

この結果を図13に示す。

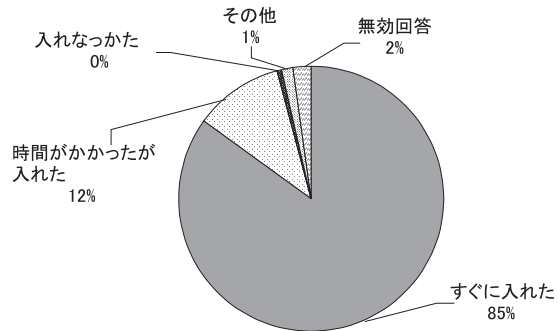


図13 診察室への移動の様子

(問6) 診察時はどんな様子だったか

有効回答は658名であった。結果は、「おとなしく座って治療を受けた」が47%(336名)で最も多かった。「人手により押さえつけられながら」が17%(120名)、「バンドや網などで拘束されながら」が13%(88名)、「口を開けないなど抵抗しながら」が9%(61名)、「泣いたり暴れたりしながら」が6%(40名)であった。

診察時に45%(309名)が、抵抗や拒否を示していることがわかった。このうちの約4割が自閉症で、約3割が知的障害の子どもたちである。また、学年が低いほど抵抗や拒否を示していることが多い。

この結果を図14に示す。

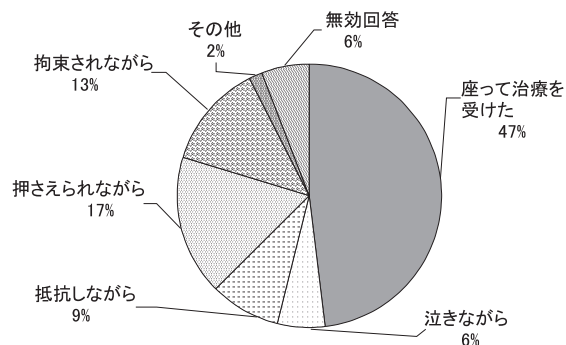


図14 診療時の様子

(問7) 治療を受けることが難しい場合、その原因と思われることは何か

- ・じっとしてられない。
- ・口や顔を触られるのを嫌がる。
- ・痛みを訴えられない。
- ・不安で口を開けられない。
- ・病院に対して恐怖心があるから。
- ・過去に無理な治療を受けたので。
- ・うがいをすることができず、口の中が気持ち悪くまで帰ってきた。

などの回答があげられていた。

障害児歯科医療の実態調査

< 2 - 3 > 歯科受診時の対応について

(問8) 歯科医院で、よかった対応は何か

- ・治療の前に本人に治療器具を手にとらせ、怖くないよと優しく伝えてくれた。
- ・言葉で理解できないことは、本人が理解できる絵を描いて、わかりやすく示してくれた。親に対しても十分に説明してくれた。
- ・待ち時間がないように、配慮してくれた。
- ・本人は不安でいっぱいだったが、歯科の人に優しくしてもらい、落ち着くことができた。
- ・歯科の人にガマンをほめられた。次の診察も嫌がらず行くことができた。
- ・子どものお気に入りのぬいぐるみを持ったまま診察台に座らせてくれた。
- ・雨の日に、タクシーに乗るまで、傘をさしてくれた。車いすの乗り降りのときに、大変助かった。
- ・人がいないお昼の時間に診察してもらえた。人混みが苦手なことを話したらわかって下さった。

などの回答があげられていた。

(問9) 歯科医院で、困った対応は何か

- ・説明なしでいきなり治療器具をはめられ、ひどいパニックになった。言ってもわからないだろうと言われた。
- ・強く叱られて、子どもが不安定になった。
- ・治療器具をつかんで投げってしまった。親のしつけを非難された。
- ・障害のことを話したらいやな顔をされた。
- ・予約してあるのに待ち時間が長く、その間に子どもの機嫌が悪くなった。
- ・治療の説明を求めたのに、してもらえなかった。
- ・診察室への付き添いを断られた。一人で無理やり連れて行かれてしまった。結局泣き暴れてしまい、診察ができなかった。
- ・マスクをしたままで話しかけられても、聞こえにくい。
- ・車いすのままから診察台へ座らせるときに、手伝ってほしかった。一人では抱えられない。

などの回答があげられていた。

(問10) 歯科医院や歯科医療への要望は何か

- ・予約時間を正確に守ってほしい。待ち時間が長すぎる。
- ・治療の手順を本人にわかるように説明してほしい。うちの子は、話を聞いてもわからないが、絵を見たら少しはわかるから。
- ・障害のことをもっとわかってほしい。
- ・15歳以上になっても小児歯科で診てほしい。せっかく先生に慣れたのに、また歯科を探さなくてはならない。

- ・治療金額の説明をしてほしい。
- ・待合室で過ごせるように、おもちゃや本を置いてほしい。
- ・できたら白衣をやめてほしい。病院の先生に対して恐怖心が大きいから。注射をする人だと思っている。
- ・診察台の間にしきりを作ってほしい。
- ・小さな子どもや泣くような患者とは、時間をずらしてほしい。泣き声が聞こえると怖くなり不安定になる。
- ・歯科の中にこわれそうな置物を置かないでほしい。
- ・診察室へ親の付き添いを許してほしい。じゃまをするつもりはないのに。
- ・治療をすぐに始める前に、子どもと仲良くなってほしい。はじめてかかわる人の前ではひどく緊張してしまうから。
- ・玄関にスロープをつけてほしい。車いすのまま、院内へ入らせてほしい。
- ・おむつを取り替えるスペースを作ってほしい。
- ・待合室に畳のコーナーがあればよい。

などの回答があげられていた。

< 設問3 > 口腔衛生について

ここでの16項目では、歯磨きの時間帯と回数、援助者、歯磨き剤の使用、歯肉口臭の状態、定期検診の受診経験の有無、歯磨き指導の経験の有無や希望、おやつ時間帯と回数、内容、虫歯の有無、虫歯予防などについて質問した。

< 3 - 1 > 歯磨きの様子について

(問1) 歯磨きをしているか

有効回答は707名であった。結果は、「毎日磨く」が81%(614名)で最も多かった。「たまに磨いている(1週間に2, 3回程度)」が11%(80名)、「ほとんど磨かない」が2%(13名)であった。

「毎日磨く」と回答した中には、自閉症、知的障害、小学部高学年が特に多く見られた。「ほとんど磨かない」と回答した中には、小学部低学年が多い。

この結果を図15に示す。

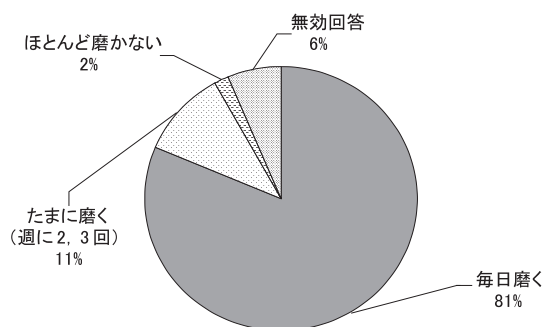


図15 歯磨きをしているか

(問2) 歯磨きは誰がしているか

有効回答は712名であった。結果は、「本人が一人で磨く」が43%(326名)で最も多かった。「本人が磨いてから仕上げ磨きをする」が28%(215名)、「保護者が全て磨く」が20%(149名)であった。「本人の手を持って介助磨きをする」が2%(17名)で最も少なかった。

年齢が上がるにつれて、「本人が磨いてから仕上げ磨きをする」の回答が低くなり、「本人が一人で磨く」の回答が高くなる傾向が見られた。

自閉症の約6割は、「本人が磨いてから仕上げ磨きをする」「保護者が全て磨く」「本人の手を持って介助磨きをする」と回答し、年齢が上がっても、回答数はあまり変化していなかった。低年齢時にパターンとして一度身に付いた歯磨きの仕方は、年齢が上がっても変わらないことが示された。自閉症の特性を表した結果の一つであると思われる。

この結果を図16に示す。

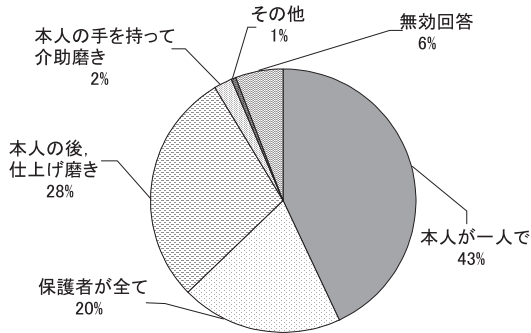


図16 歯磨きは誰がしているのか

(問3) 1日に歯磨きを何回しているか

有効回答は702名であった。結果は、「2回磨く」が39%(290名)で最も多かった。「3回」が34%(256名)、「1回」が16%(119名)、「4回」が4%(31名)、「5回」が3名、「6回」が3名であった。

在籍している学校の昼食後に歯磨きをしているかどうか、この問いの結果に影響していると思われる。

「1回」と回答した大半は、夕食後や就寝前に歯磨きを行っている。

「6回」と回答した中には、「服薬の薬によりむし歯がしやすいと言われているから」「指で磨いているので時間はかけていない。」という記述があった。

この結果を図17に示す。

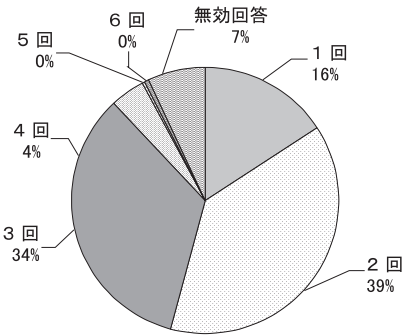


図17 1日に歯磨きを何回しているのか

(問4) 1回の歯磨きの時間は何分間か

有効回答は704名であった。結果は、「1~2分間」が36%(269名)で最も多かった。「2~3分間」が30%(228名)、「1分間以内」が19%(145名)であった。「3分間以上」が8%(62名)で最も少なかった。

歯磨きの時間としては一般的に3分間とよく言われるが、実際口の中の全体をきれいにするには、5分間は必要だと言う。きれいになったかどうかよりも、歯磨きをしたどうかのポイントとなっているのであろう。年齢や障害種別に特に大きな違いは見られなかった。小学部低学年で身に付いた習慣は、高等部になってもあまり変わらないと考えられる。

この結果を図18に示す。

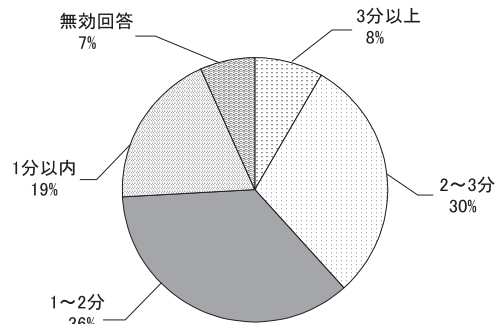


図18 1回の歯磨きの時間は何分間か

(問5) 1番回数の多い歯磨きの援助者は誰か

有効回答は705名であった。結果は、「母親」が65%(497名)で最も多かった。「その他(一人で)」が19%(147名)、「父親」が6%(43名)、「祖母」が2%(12名)であった。「祖父」が1%(43名)で最も少なかった。

歯磨きの援助は、母親の仕事となっているのが伺える。年齢が上がるにつれて「母親」の回答が少なくなり、「その他(一人で)」の回答が多くなる。父親や祖父母の回答数は、年齢が上がってもそう変化は見られない。このことから、母親と母親以外の家族では、歯磨きの援助の仕方の違いがあるのではないかと考えられる。

父親や祖父母が介助磨きや仕上げ磨きをしているのに対し、母親はただ援助しているのではなく、歯磨きの仕方

障害児歯科医療の実態調査

が身に付くように援助しているのではないと思われる。
この結果を図19に示す。

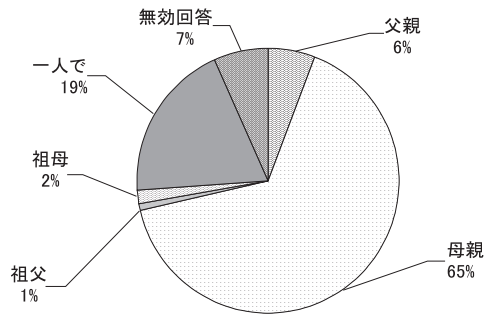


図19 回数の多い歯磨きの援助者は誰か

(問6) 歯磨きで工夫していることは何か

- ・食べたらずぐに磨くようにしている。
- ・歌を歌いながら磨いている。
- ・数を数えながら磨いている。
- ・好きなキャラクターの歯ブラシを使用している。
- ・ビデオを見ながら（膝の上で）。
- ・鏡を見ながら、隣で一緒に磨いている。
- ・磨いた後にビデオを見る約束をしている。

などの回答があげられていた。

(問7) 歯磨き剤を使用しているか

有効回答は705名であった。結果は、「使用している」が69%(522名)、「使用していない」が24%(183名)であった。

年齢が上がるにつれて、「使用している」の回答が多くみられた。「使用していない」の回答者の中には、うがいができないという理由が記述されていた。

(問8) 歯肉や口臭の状態が気になるか

有効回答は705名であった。結果は、「少し気になる」が39%(297名)で最も多かった。「気にならない」が34%(258名)、「気になる」20%(149名)であった。

「少し気になる」「気になる」と回答した保護者のほとんどが、問7「歯磨き剤を使用しているか」の設問において、「使用している」と回答していた。

この結果を図20に示す。

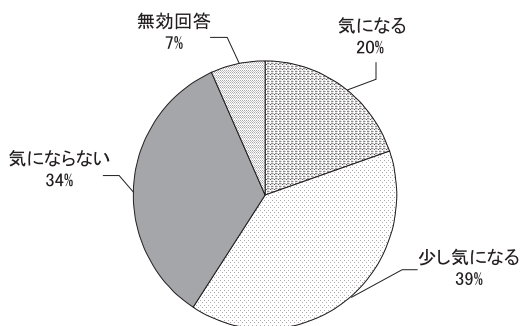


図20 歯肉や口臭の状態が気になるか

< 3 - 2 > 歯科検診, 歯科指導について

(問9) 学校以外で、定期的に歯科検診を受けているか
有効回答は708名であった。結果は、「受けていない」が60%(452名)、「受けている」が34%(256名)であった。

学年が低いほど「受けている」の回答が多く見られた。この保護者のほとんどは、「半年に2, 3回」「1年に2, 3回」の頻度で歯科を受診していることがわかった。

(問10) 学校以外で、歯磨き指導を受けたことがあるか
有効回答は708名であった。結果は、「受けたことがある」が48%(364名)、「受けたことがない」が46%(344名)だった。

「受けたことがある」と回答した約8割は、歯科医院や歯科センターにおいて歯磨き指導を受けている。

(問10-2) 歯磨き指導を受けた場所はどこか

有効回答は339名であった。結果は、「歯科・歯科センター」が80%(293名)で最も多かった。「地域の保健所で」が10%(36名)、「歯科・保健所どちらでもある」が1%(7名)であった。その他の場所として、「子育てサークル」「保育園」などの回答があげられていた。

この結果を図21に示す。

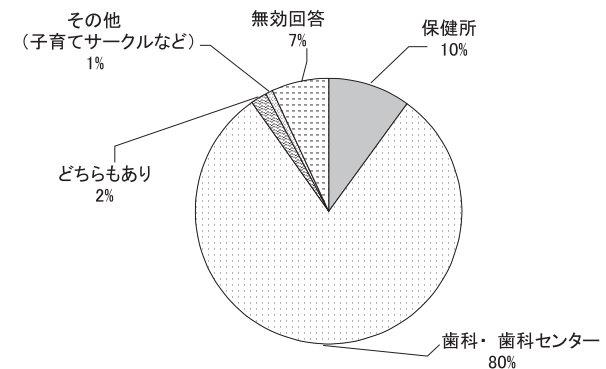


図21 歯磨きの指導を受けた場所はどこか

(問11) 歯磨き指導を定期的に受けたらいいか

有効回答は702名であった。結果は、「どちらでも」が55%(400名)で最も多かった。「受けたらいい」が33%(247名)、「受けたらいい」が7%(55名)であった。

「受けたらいい」と回答した約半数は、歯磨き指導を受けたことがある保護者である。「受けたらいい」と回答した約半数は、歯磨き指導を経験したことがない保護者であった。

この結果を図22に示す。

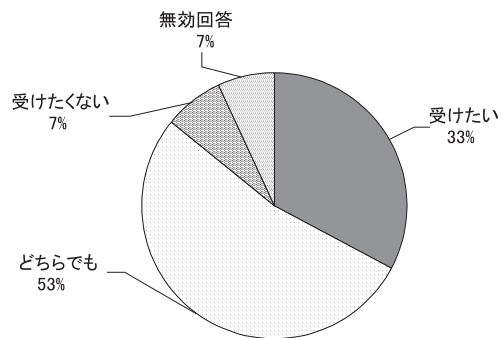


図22 歯磨きの指導を受けたいか

< 3-3 > おやつ、むし歯について

(問12-1) 1週間に何回おやつを食べているか

有効回答は701名であった。結果は、「毎日食べる」が64%(485名)で最も多かった。「たまに食べる」が23%(176名)、「食べない」5%(34名)、「食べさせない」1%(6名)であった。

年齢が低いほど「毎日食べる」の回答が多く見られた。ある保護者のおやつを食べさせない理由として、「むし歯にならないためではなく、ごはんを食べなくなるから」という記述回答もあった。

この結果を図23に示す。

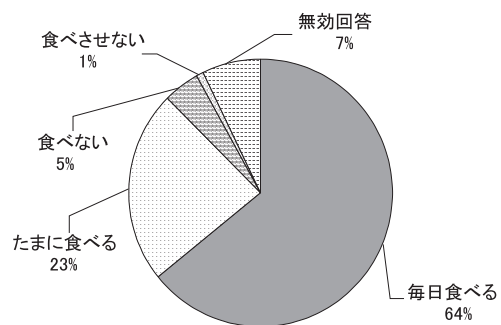


図23 1週間に何回おやつを食べているか

(問12-1) 時間を決めておやつを食べているか

有効回答は481名であった。結果は、「決まっている」が62%(302名)、「決まっていない」が37%(179名)であった。

自閉症の約7割は「決まっている」と回答していた。食べている時間としては、「学校からの帰宅後」が最も多く回答されていた。

(問13) おやつによく食べる物は何か

有効回答は605名であった。結果は、「スナック菓子」が26%(192名)で最も多かった。「ヨーグルト・ゼリー・アイスクリーム類」が21%(157名)、「せんべい」が9%(71名)、「果物類」が6%(45名)、「チョコレート類」が5%(38名)、「クッキー類」が5%(37名)であった。「キャンディ類」が1%(10名)で最も少なかった。

小学部(低学年)と中学部では、「ヨーグルト・ゼリー・アイスクリーム類」、小学部(高学年)と高等部では、「スナック菓子」を食べていることが多かった。

また、「ヨーグルト・ゼリー・アイスクリーム類」を与えている保護者は、1回のおやつを決めている場合が多いことがわかった。1本だけ、小さいカップを3個だけ、などと、約束もわかりやすいということが考えられる。

「スナック菓子」を与えている保護者は、お皿に1杯、小袋1袋などと量を決めている場合と、大袋や箱を本人に与え、好きなだけ食べさせている場合とに回答が分かれた。

この結果を図24に示す。

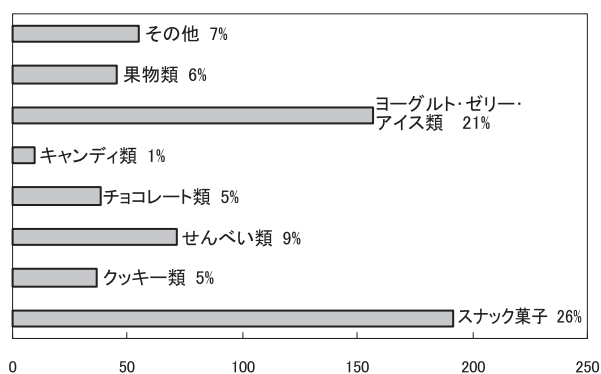


図24 おやつによく食べる物は何か

(問14) おやつによく飲む物は何か

有効回答は634名であった。結果は、「お茶」が35%(261名)で最も多かった。「牛乳」が16%(122名)、「スポーツ系ドリンク」が10%(79名)、「果物野菜系ジュース」が10%(75名)、「炭酸系ジュース」が7%(50名)、「家庭で作ったコーヒー・紅茶など」が3%(20名)であった。「缶コーヒー・缶紅茶類」が2%(16名)で最も少なかった。

全体的に、おやつとしてお茶が飲み物としてよく飲まれている。次には、小学部(低学年)と中学部と高等部では「牛乳」、小学部(高学年)では「果物野菜系ジュース」を飲んでいることが多かった。

年齢が高くなるほど、「スポーツ系ドリンク」「缶コーヒー類」「家庭で作ったコーヒー類」が多くなる傾向が見られた。「炭酸系ジュース」は小学部(低学年)から中学部までは変化がないが、高等部になり4倍になっていた。

また、1回のおやつを決めている保護者は、コップよりもパックで、飲み物を与えている場合が多いことがわかった。おやつを食べ物と同じように、約束がわかりやすいということであろう。そして、ストローを使い、こぼさないで飲むことができるという点も考えられる。

この結果を図25に示す。

障害児歯科医療の実態調査

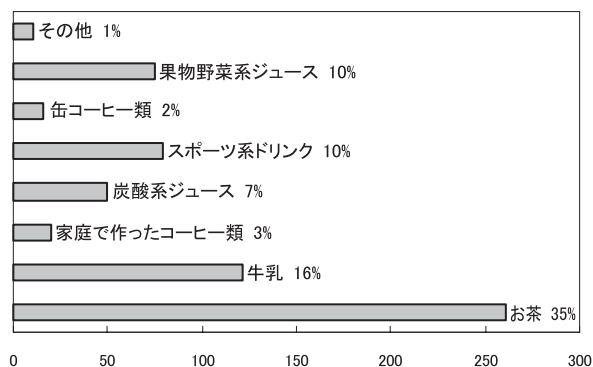


図25 おやつによく飲む物は何か

〈問15〉むし歯があるかどうか

有効回答は687名であった。結果は、「むし歯がない」が58% (432名)で最も多かった。「むし歯がある」が22% (169名)、「あるかどうかわからない」が11% (86名)であった。

むし歯があるかどうかわからない理由については、約半数が「学校の歯科健診を受けることができなかった」だった。

この結果を図26に示す。

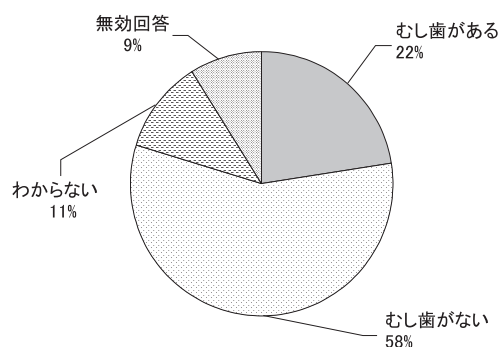


図26 むし歯があるか

〈問16〉むし歯にならないように、どんなことに気をつけているか

- ・食後に必ずお茶を飲ませている。
- ・糖分をあまり含まないお菓子を選んでいる。
- ・カルシウムのサプリメントを飲んでいる。
- ・魚を食べている。
- ・定期的に歯科を受診し、チェックを受けている。もうむし歯で通院するのはいやだから。
- ・日頃から口の中をよく見るようにしている。
- ・ジュースを飲ませないようにしている。特に炭酸ジュース。本人はほしがっているが飲ませない。

などの回答が多くあげられていた。

〈設問4〉 歯科情報について

ここでの3項目では、歯科に関する情報の入手方法、今まで受けた歯科指導の内容、今後希望する歯科情報の内容などについて質問した。

〈問1〉どこで歯科に関する情報を入手しているか

有効回答が647名であった。結果は、「学校で入手している」が34% (261名)で最も多かった。「歯科医院で」26% (194名)、「友人から」が13% (98名)であった。テレビや新聞などで」が12% (89名)で最も少なかった。

これから知りたいと思う内容については、「歯科治療内容について」が最も多かった。その他の内容として、「どこの歯科で障害児を診てもらえるのか知りたい」「障害児の歯科矯正について知りたい」などの回答があげられていた。

県内の特殊教育諸学校では、歯磨き指導や歯科健診、ある学校では親子歯磨き教室などを行っているが、保護者が歯科に関する情報を入手している機会として、大きな意味を持っていることが考えられる。また今後、学校での情報の提供の仕方が、課題の一つではないかと思われる。

この結果を図27に示す。

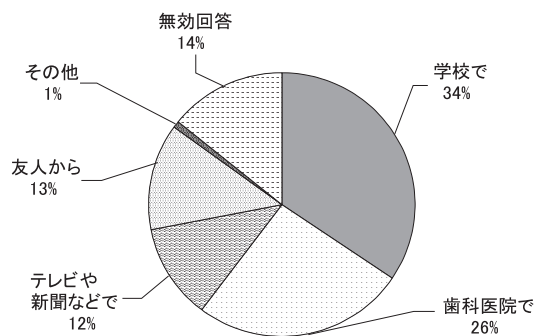


図27 どこで情報を入手しているか

〈設問5〉 要望や意見など

ここでの2項目では、学校やアンケート全般についての意見を質問した。

〈問1〉歯に関しての学校への要望は何か

- ・学校での歯科健診の回数を増やしてほしい。
 - ・定期的に歯磨き指導をしてほしい。
 - ・給食後の歯磨き指導を徹底してほしい。
 - ・買い物学習でお菓子を買うのをやめてほしい。
 - ・調理実習で、おやつではなく食事になる料理を教えてほしい。
 - ・フッ素塗布をしてほしい。
- などの回答があげられていた。

〈問2〉アンケート全般について

- ・アンケートの結果を有効に役立ててほしい。
- ・障害児でも気軽に歯科治療を受けられるようになってほしい。
- ・障害児が気兼ねなく行ける病院があればよい。

- ・私たちの声を自治体に届けてほしい。
 - ・県内に歯科センターを増やしてほしい。
 - ・歯科センターの診察日を増やしてほしい。
- などの回答があげられていた。

5. まとめ

富山県内の障害児における歯科に関する実態を、医療を受けている側から捉えるために、県内の特殊教育諸学校12校に在籍する児童生徒をもつ保護者を対象にし、アンケート調査を行った。

歯科受診については、93%が受診を経験し、通院時には24%、診察時には45%が、抵抗や拒否を示していることが明らかになった。そして、抵抗や拒否を示す子どもたちや歯科医院の様々な対応に、保護者は様々な悩みを抱えていることがわかった。自閉症や知的障害の保護者は、歯科医療側の対応が診察時の子どもに影響があると考えており、障害児専門の態勢がある歯科医院に通院し、障害の特性に応じた対応をしてほしいという要望が多い。視覚障害、聴覚障害、肢体不自由の保護者は、通院の便利さを重視し、歯科医院内の設備や通院時の交通手段の改善などを要望していた。以上のように、それぞれの障害の特性を反映した回答があげられていたと思われる。

口腔衛生については、保護者のむし歯予防に対する意識の違いが回答に表れていた。定期的に通院している保護者は、仕上げ磨きや介助磨きをしており、おやつとの与え方にも配慮している傾向が見られた。また、検診やフッ素塗布で定期的に通院し歯科に慣れることは、むし歯ができて治療を行うときに有効だと考えている。一方、定期検診やフッ素塗布などの予防に関する内容を学校側に希望していることが明らかになった。学校医との連携をとり、地域の歯科の協力を得る必要があると思われる。

障害を持つ子どもたちは、歯科への通院や治療の必要性、治療内容などを理解することが難しく、特に知的障害の程度が重度である場合や、自閉症や自閉的傾向である場合ほど、抵抗や拒否も大きいことが予想される。そういった子どもたちを診察する医療側も、子どもたちを理解できずに悩みながら治療をしているのではないかとと思われる。医療現場では、医師と患者のインフォームドコンセントが重要とされているが、障害児を持つ保護者もそれを強く望んでいることは、調査の結果からも示された。

今、教育の現場では、援助の仕方が障害をもつ子どもの行動に影響を与え、周囲の不適切なかかわり方が不適切な行動を増やすのではないかと考えられ、援助の仕方や必要性のあり方が再確認されている。自らコミュニケーションをとることが難しい障害を持つ子どもを援助するときには、子どもにかかわる周囲が子どもを理解し、適切にかかわることが重要である。医療現場においても同

様であり、子どもの不適切な行動を未然に最小限に防ぐことは可能であると考えられる。

調査の中でも、保護者から歯科医療側の障害への理解と障害に応じた対応についての要望が多い。これは、保護者と医療側との意思疎通の少なさと信頼関係の不足が原因の一つではないかと考える。しかし、診察時の限られた短い時間の中で、患者である子どもの障害について理解することは到底難しい。付き添いの保護者が説明をしている時間もないに違いない。

この改善の一つとして、診察前に、歯科側へ子どもの障害や特性を伝えることを提案する。一般の問診票からは得られない情報を事前に伝えることで、歯科医師や歯科衛生士が障害を持つ子どもとのコミュニケーションのきっかけをつかめるのではないかと、治療環境を整えたり、治療手順や内容を理解できるように伝えたりすることが、診察の動機づけや治療をスムーズに進めることにつながるのではないかと考える。

歯には自然治癒力がなく、むし歯の痛みは我慢することができない。食べる時には苦痛を伴い、眠りさえもままならない。それは年齢に関係なく、大人であっても同じである。歯の痛みを耐え切れず、仕方なく歯科を受診する人も多いのではないだろうか。しかし、障害を持つ子どもたちは、歯の痛みを言葉で伝えることが苦手である。泣く、暴れる、いらいらする、眠れない、噛みつくなど、身体で表現するものの、それは大人に歯の痛みを訴えているとは伝わらず、気付かないこともあるのではないかと。機嫌が悪い、不安定だ、と一言で片づけているのではなかろうか。

調査の中の1枚に、ある保護者の手紙が添えられていた。

「息子が小学5年生の時です。大好きなハンバーグも食べず、機嫌が悪い日が続きました。お菓子でも、ジュースでいいから食べて欲しいと並べても何も口にせず、苦みつぶした顔をしていました。どこか悪いのかと心配になり、小児科へ行きました。「のどを診ましょ。」と口の中を診られたところ、異臭がひどくて真っ黒でした。むし歯が進み、化膿していたのです。すぐに歯科を紹介されて受診しました。これまで歯ブラシさえ口の中に入れたことがありませんでした。嫌がるので、泣かせて手のかかる回数が1回でも減ればと思い、歯磨きはしていませんでした。先生に噛みつき、押さえていた歯科衛生士さんのおなかに頭突きをし、まわりの治療器具をめちゃくちゃにして息子は診察室から飛び出しました。男の先生方に取り押さえられ連れて行かれたところは精神科でした。有無を言わず大きな注射をされました。…(途中省略)

…1週間の入院をし、全身麻酔にて手術を行いました。そして、毎日歯磨きの練習がはじまりました。

障害児歯科医療の実態調査

はじめは指を入れるところからでした。指にガーゼを巻き、1日に何回もしました。…(省略)

もうあんな思いをするのはこりごりです。息子も少しはこりたのでしょうか。嫌々ながらも私の膝の上で、歯磨きをされる間はおとなしくしています。あれから6年が経ちました。むし歯は1本もありません。息子の障害を理解し、優しい先生にも巡り会い、定期的に先生にも診てもらい、診察台に座る練習に行っています。食べることが唯一と言ってもいいほどの息子から、楽しみを取り上げてしまうことにならなくて、ほんとうによかったです。初めての歯科でのことは思い出したくありませんが、同じことが繰り返されないようにまわりの方に伝えて行きたいと思います。うまくまとまりませんが、障害を持った子どもが気軽にに行ける歯科が増えてくれればと思います。」

ある書物の中には母親の障害の受容の心理過程と歯磨きとの関係が述べてあった。我が子に障害があると告げられ、ショック、否認、悲しみと怒り……その頃はとうてい歯磨きなんかの必要を感じる気持ちにならない。適応、再起という心理状態にならないければ、歯磨きをしようという気持ちや行動が表れないのだと。しかし、1年、2年…と時間が経つに連れ口内環境が悪くなり、取り返しのつかない状況になる場合もあるようだ。上記のお母さんは、息子さんのむし歯がきっかけで、息子さんの人生と母親としてすべきことを考え、食べる楽しみを奪ってはならない、と思われたのであろう。人として健康に生きるためには、食べることが大きな意味を持っている。楽しみの一つでもあり、年齢を重ねても、障害があってもなくても同じである。

この実態調査の結果が、現在の障害児の歯科医療について見直すきっかけになり、医療を受ける側もする側も、気持ちの良いかかわりの中で進むことが増えればと願う。

保護者の日常的な口腔管理と、医療機関の理解ある対応が適切に行われることで、障害児の歯が守られ、健康な生活を送ることができる。その中で学校がすべきことは何かをこれから探っていきたい。

謝 辞

本研究の実態調査におきまして、富山県歯科医師会、富山県特殊教育諸学校校長会、富山県特殊教育諸学校養護教育部会、富山県内の盲・ろう・養護学校に在籍する児童生徒の保護者のみなさま方に、多大な協力をいただきました。ここに記して厚くお礼申し上げます。

文 献

- 猪狩和子, 斉藤 徹, 斉藤 峻, 神山紀久男「宮城県における障害者歯科医療の実態」障害児歯科, 第15号, 157-169頁, 1994年.
- 海老名和子, 鈴木温子, 嶋 智美「障害児の歯科保健行動と歯肉健康度について」静岡県立大学短期大学部研究紀要第13-2号, 311-316頁, 1999年.
- 海老名和子「知的障害児の保護者と健常児の保護者との歯科保健に関する意識の違いについて」静岡県立大学短期大学部特別研究報告書(13・14年度)
- 玄 景華, 安田順一, 岩田浩司, 大山吉徳, 田邊晶子, 中嶋正人, 平田健一, 辻 甫, 岩山幸雄, 石黒 光, 土田 治, 水野明広「岐阜県における障害者歯科医療の問題点—障害者へのアンケートと要望分析—」障害児歯科, 第21号, 219-230頁, 2000年.
- 厚生省「平成11年歯科疾患実態調査報告—厚生省健康政策局調査—」1999年.
- 竹内靖人, 重田三重子, 日詰正文, 飯田祥子, 木村宣子「発達障害児の歯科治療に関するアンケート調査」長野県精神保健福祉センター報告書, 2002年.
- 武田康男, 竹辺千恵美「障害児(者)の地域歯科健診に関する研究 第1報 歯科健診システムと初健診時アンケートについて」小児歯科, 第34号, 38-46頁, 1996年.
- 原田桂子, 西野瑞穂「自閉症児(者)の口腔保健管理に関する調査—歯科診察表と歯磨きの実態より—」障害児歯科, 第23号, 532-538頁, 2002年.
- 弘中祥司, 木下憲治, 白川哲夫, 及川 透, 小口晴久「北海道における心身障害児の歯科医療に関する実態調査—養護学校児童を対象としたアンケート調査—」障害児歯科, 第19号, 305-312頁, 1998年.

資料 1 「歯科治療に関する調査」質問紙（1枚目）

<設問 1> お子様について

- (問1) 性別のどちらかを選び、○をつけて下さい。 ① 男 ② 女
- (問2) 年齢と学部・学年をお答え下さい。数字をお書き下さい。
 () 歳 小学部 () 年生 ・ 中学部 () 年生 ・ 高等部 () 年生
- (問3) 現在、お子様が住んでおられる場所について、○をつけて下さい。
 ① 自宅 ② 学校の寄宿舎 ③ 施設に入所 ④ その他 ()
- (問4) お子様が登場していると思われる障害名に○をつけて下さい。
 ① 聴覚障害 ② 聴覚障害 ③ 知的障害 ④ 肢体不自由 (上肢 ・ 下肢以外)
 ⑤ 病弱・虚弱 ⑥ 自閉症・広汎性発達障害 ⑦ LD ⑧ ADHD
 ⑨ 情緒・心因性の問題 (不登校など) ⑩ その他 ()
- (問5) 今までに、自閉症と診断されたり、自閉的傾向があると書かれたりしたことがありますか。
 ① 自閉症 (広汎性発達障害) と診断されたことがある。
 ② 自閉的傾向があるのではないかと書かれたことがある。
 ③ 診断されたり、言われたことはないが、自閉症ではないかと気になっている。
 ④ 診断されたことも、言われたこともない。
 ⑤ その他 ()

<設問 2> 歯科受診について

- (問1) 今までに歯科にかかったことがありますか。どちらかを選び、○をつけて下さい。
 ① ある
 ・「ある」場合、歯科受診の理由について、1つだけ選び、○をつけて下さい。
 ア. 障害児に専門的に対応してくれる態勢があるから。 イ. たまたま近所で通院に便利なので。
 ウ. 医師や歯科衛生士の対応がやさしいので。 エ. 治療技術がよいので。
 オ. その他 ()
 ・「ある」場合、差し障りがなければ、かかれた歯科医院をお答え下さい。
 ア. 富山県歯科保健医療総合センター () 医院・病院
 ・「ある」場合、これまでのくらい利用されたことがありますか。○をつけて下さい。
 ア. 毎月約1回以上利用している。 イ. 半年に約2、3回利用している。
 ウ. 1年に約2、3回利用している。 エ. その他 ()
 ② ない
 ・「ない」場合、その理由について、1つだけ選び、○をつけて下さい。
 ア. 虫歯がなく、行く必要がないので。 イ. 障害児専門歯科がわからないので。
 ウ. 連れて行きたいが、本人が拒否しているから。 エ. 近くに歯科がないから。
 オ. 時間が合わないから。 カ. 歯科に受診態勢が整っていないから。
 キ. その他 ()

- *問2～問9は、問1で歯科受診をしたことが「ある」と答えられた方のみ回答して下さい。
 (問2) どのような動機で、歯科に行かれましたか。あてはまるものを1つ選び、○をつけて下さい。
 ① 検診を受けるため。 ② 自宅で虫歯が見つかったので。
 ③ 自宅で、歯ぐきから出血があるなど、歯肉に問題があったので。
 ④ 学校から治療カードをもらったので。(虫歯・歯肉炎・咬合など)
 ⑤ 虫歯予防のため。(フッ素塗布など) ⑥ その他 ()
- (問3) 通院までの様子をお答え下さい。あてはまるものを1つ選び、○をつけて下さい。
 ① すんなり通院できた。 ② 歯医者に行くと言っただけで抵抗、拒否された。
 ③ 歯医者の前で抵抗、拒否された。 ④ その他 ()

(問4) 待合室の様子をお答え下さい。あてはまるものを1つ選び、○をつけて下さい。

- ① おとなしく待っていていられた。
 ・詳しい様子をお答え下さい。あてはまるものを1つ選び、○をつけて下さい。
 ア. 本を見ながら イ. おもちゃや、ゲームで遊びながら
 ウ. テレビやビデオを見ながら エ. 何もしなくても
 オ. その他 ()
- ② 待っていていられたかった
 ・詳しい様子をお答え下さい。あてはまるものを1つ選び、○をつけて下さい。
 ア. 落ち着かず動き回っていた イ. 診察室や他の部屋に入ろうとした
 ウ. ただ泣く、パニックなど エ. テレビや飾り物などをいじって困った
 オ. 歯科医院から出たがった カ. トイレなどの水道をいじっていた
 キ. 他の患者さんによっかいを出した ク. 電気のスイッチをいじっていた
 ケ. その他 ()

(問5) 診察室への移動するときの様子をお答え下さい。あてはまるものを1つ選び、○をつけて下さい。

- ① 呼ばれてすぐに診察室へはいれた。 ② 時間がかかったが診察室へはいれた。
 ③ 時間をかけたが診察室へはいれなかった。 ④ はいれなかった。
 ⑤ その他 ()
- (問6) 診察時の様子をお答え下さい。あてはまるものを1つ選び、○をつけて下さい。
 ① おとなしく座って治療を受けた。 ② 泣き叫んだり暴れたりしながら。
 ③ 口を開けないなどで抵抗しながら。 ④ 人手により押さえつけられながら。
 ⑤ ハンドや網などで拘束されながら。 ⑥ その他 ()

(問7) お子様が生産を受けたことが難しい場合があるとすれば、その原因について思われることを、具体的に書き下さい。

()

(問8) 歯科医院で、よかった、と思われる対応について、具体的に書き下さい。

()

(問9) 歯科医院で、困った、と思われる対応について、具体的に書き下さい。

()

*問10はすべての方にお聞きます。
 (問10) 歯科医院や歯科医への要望について、具体的に書き下さい。

()

資料 2 「歯科医療に関する調査」質問紙（2枚目）

<設問3> 口腔衛生について

* 施設や寄宿舎で生活しておられる場合は、自宅での様子を答え下さい。

- (問1) お子様は歯磨きをしておられますか。あてはまるものを1つ選び、○をつけて下さい。
 ① 毎日磨いている ② たまに磨いている（1週間に2、3回程度） ③ ほとんど磨かない
 (問2) 歯磨きは主に誰がしておられますか。あてはまるものを1つ選び、○をつけて下さい。
 ① 本人が一人で磨く ② 保護者が全て磨く ③ 本人が磨いてから仕上げ磨きをする。
 ④ 本人の手を持って介助磨きをする ⑤ その他（ ）

(問3) 歯磨きはいっしょに行っておられますか。あてはまる場所に○をつけて下さい。

	起床時	朝食後	昼食後	間食後	夕食後	就寝前
本人						
介助者						

- (問4) 1回の歯磨きの時間をお答え下さい。あてはまるものを1つ選び、○をつけて下さい。
 ① 3分以上 ② 2～3分 ③ 1～2分 ④ 1分以内
 (問5) 歯磨きの援助者について、お答え下さい。1番回数が多い援助者を1人選び、○をつけて下さい。
 ① 父親 ② 母親 ③ 祖父 ④ 祖母 ⑤ その他（ ）
 (問6) 歯磨きで工夫していることがあれば、具体的に書き下さい。

- (問7) 歯磨き剤を使用しておられますか。 ① 使用している ② 使用していない
 (問8) 子供の歯肉や口臭の状態が気になりますか。あてはまるものを1つ選び、○をつけて下さい。
 ① 気になる ② 少し気になる ③ 気にならない
 (問9) 学校の歯科検診以外に定期的に歯科検診を受けておられますか。どちらかに○をつけて下さい。
 ① 受けている ② 受けていない
 (問10) 学校以外で、歯磨き指導を受けたことがありますか。どちらかに○をつけて下さい。
 ① 受けたことがある（ 地域の保健所で、 歯科医院で、 その他（ ） ）
 ② 受けたことがない
 (問11) 歯磨き指導を定期的に受けたいと思われませんか。強くあてはまるものを1つ選び、○をつけて下さい。
 ① 受けない ② どちらでも ③ 受けたくない

(問12) おやつ（間食）の時間帯と回数についてお答え下さい。

- ① 毎日食べる
 ・時間を決めて食べていますか。 ア. 決めている イ. 決めていない
 ・食べている時間帯をすべて選び、○をつけて下さい。
 ア. 帰宅後すぐ イ. 夕食前 ウ. 夕食後 エ. 欲しい時間に オ. その他（ ）
 ② たまに食べる（1週間に2、3回程度）
 ③ 食べない
 ④ 本人はほしいが、食べさせないようになっている
 ⑤ その他（ ）

(問13) おやつの内容についてお答え下さい。よく食べるものを1つ選び、○をつけて下さい。

- ① スナック菓子類 ② クッキー類 ③ おせんべい類
 ④ チョコレート類 ⑤ キャンディー類 ⑥ ヨーグルト・ゼリー・アイスクリーム類
 ⑦ 果物類 ⑧ その他（ ）
 ・1回にどのくらい量を食べていますか。（ ）

(問14) おやつの内容についてお答え下さい。よく飲むものを1つ選び、○をつけて下さい。

- ① お茶 ② 牛乳 ③ 家庭で作られたコーヒー、紅茶、ココア類
 ④ 炭酸ジュース ⑤ スポーツ系ドリンク ⑥ 缶コーヒー、缶紅茶
 ⑦ 果物系ジュース ⑧ その他（ ）
 ・1回にどのくらい量を飲んでみますか。（ ）

(問15) 虫歯があるかどうかについてお答え下さい。あてはまるものを1つ選び、○を下下さい。

- ① ある ② ない ③ わからない（ 健診を受けていない・健診を受けられなかった ）

(問16) 虫歯にならないように気をつけていることがあれば、具体的に書き下さい。

<設問4> 歯科情報について

(問1) 歯科に関する情報の入手方法についてお答え下さい。1番多く情報を得られるところを1つ選び、○をつけて下さい。

- ① 学校で ② 歯科医院で ③ テレビや新聞、雑誌などで ④ 友人から ⑤ その他（ ）

(問2) 今まで受けた歯科指導の内容についてお答え下さい。あてはまるものを全て○をつけて下さい。

- ① 歯磨きについて ② 虫歯のできかたについて ③ 歯ぐきや歯肉の病気について
 ④ おやつについて ⑤ 食事について ⑥ その他（ ）

(問3) これから知りたい、ほしいと思われている内容についてお答え下さい。あてはまるものを全て○をつけて下さい。

- ① 歯磨きについて ② 虫歯のできかたについて ③ 歯ぐきや歯肉の病気について
 ④ おやつについて ⑤ 食事について ⑥ 歯科治療内容について
 ⑦ その他（ ）

<設問5> その他

(問1) 歯に関して、学校へのご要望、ご意見について、お聞かせ下さい。

(問2) アンケート全般についてのご意見をお聞かせ下さい。

保護者の皆様の貴重なご意見を大切に、今後の歯科治療について考えていきたいと思っております。ご協力もありがとうございます。